

# 日本子ども社会学会

## 第17回大会 プログラム

2010年7月3日（土）・4日（日）

京 都 女 子 大 学

## 大会の日程

### 前 日 7月2日(金)

|             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 15:30～16:50 | 会計監査 (B校舎1階 児童学第三研究室) |
| 17:00～19:00 | 理事会 (C校舎3階 第一会議室)     |

### 第1日 7月3日(土)

|             |                    |
|-------------|--------------------|
| 9:00        | 受付 (C校舎1階 ロビー)     |
| 9:30～12:00  | 研究発表Ⅰ-1～4 (C校舎4階)  |
| 12:00～12:40 | 総会・研究奨励賞授賞式        |
| 12:40～13:30 | 昼食                 |
| 13:30～15:30 | 研究発表Ⅱ-1～3 (C校舎4階)  |
| 15:40～17:40 | ワークショップ1～3 (C校舎4階) |
| 18:00～20:00 | 懇親会                |

### 第2日 7月4日(日)

|             |                     |
|-------------|---------------------|
| 9:00        | 受付 (C校舎1階 ロビー)      |
| 9:30～12:00  | 研究発表Ⅲ-1～4 (C校舎3・4階) |
| 12:00～13:20 | 昼食                  |
|             | 評 議 会 (C校舎3階 第二会議室) |
|             | 各種委員会 (C校舎3階 第一会議室) |

|                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 13 : 20～15 : 20 | 公開講演会（C校舎 5 階 C501 教室） |
| 15 : 30～17 : 30 | ラウンドテーブル 1～3（C校舎 4 階）  |

## ご 案 内

### 1. 会場

京都女子大学（4 ページの地図をご覧ください）

### 2. 大会実行委員会連絡先

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35  
京都女子大学 発達教育学部児童学科 児童学第三研究室気付  
日本子ども社会学会 第 17 回大会実行委員会  
TEL & FAX : 075-531-7137  
E-mail : kawakatu@kyoto-wu.ac.jp

入会および会費納入に関する相談・問い合わせは、  
下記の日本子ども社会学会事務局へお願いします。

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6 - 19 - 1

九州大学教育学部 坂元研究室 気付

日本子ども社会学会事務局

FAX : 092 - 642 - 3151

郵便振替口座 01760 - 1 - 85048

E-mail : jscs@kodomo-cu.jp

学会ホームページ : <http://js-cs.jp/>

※事務局へのご連絡や、お問い合わせは、ハガキ・FAX・  
E-mail 等をお願いします。

### 3. 大会への参加申込み方法および参加費

同封の参加申込みハガキで事前にお申し込みください。

また下記の振替口座に大会参加費・懇親会費をお振り込みください。

日本子ども社会学会第 17 回研究大会 00920-7-304000

お申込み及び振込締切 2010 年 6 月 25 日(金)

|          |         |
|----------|---------|
| 大会参加費 会員 | 3,500 円 |
| 臨時（当日）会員 | 3,500 円 |
| 懇親会参加費   | 5,500 円 |

※公開講演会のみ参加の場合は、無料。

【ご注意】参加取り消しの場合は、必ず 6 月 30 日までにご連絡ください。  
その後のご返金には応じることができませんので、ご注意ください。

4. 受付

7 月 3 日（土）・4 日（日） 京都女子大学 C 校舎 1 階入口にて  
※臨時（当日）会員は、受付にて直接参加費をお支払いください。

5. 懇親会                      参加費   5,500 円      大学院生   3,500 円

7 月 3 日（土） 18 時より、京都女子大学 A 校舎地下食堂にて開催します。  
参加ご希望の方は、同封の参加申込みハガキにてお申し込みください。

6. 研究発表

個人（1 人）発表 20 分・質疑応答 5 分、共同（複数）発表 40 分・質疑応答 10 分とします。発表時間を厳守してください。なお、当日レジュメを用意される場合は、50 部以上ご用意ください。万一不足の場合でも、大会本部でのコピー等はいたしかねますので、ご了承ください。

7. 発表取消（欠席）

発表を取消（発表者が欠席する）の場合には、大会前日（7 月 2 日）までに 2. の大会実行委員会までお知らせください。なお、発表取消については、「学会ニュース」にその旨を掲載します。

8. 当日配付資料

当日別途資料を配付される場合は、分科会名・氏名を明記し、各分科会の発表当日に会場係にお早めにご提出ください。

9. クローク

7月3日・4日、C校舎4階C409教室にてお預かりいたします。  
なお、貴重品はお預かりできませんので、必ず各自でお持ちください。

#### 10. 会員休憩室

7月3日・4日、C校舎3階第一会議室をご利用ください。

【ご注意】会員休憩室を含め校舎内は全面禁煙です。

喫煙は、所定の場所（E校舎とC校舎の間）でお願いいたします。

#### 11. 昼食

7月3日・4日の両日、お弁当の注文を承りますので、同封の申込みハガキにてお申し込みください。1,000円（お茶付き）です。

#### 12. 宿泊

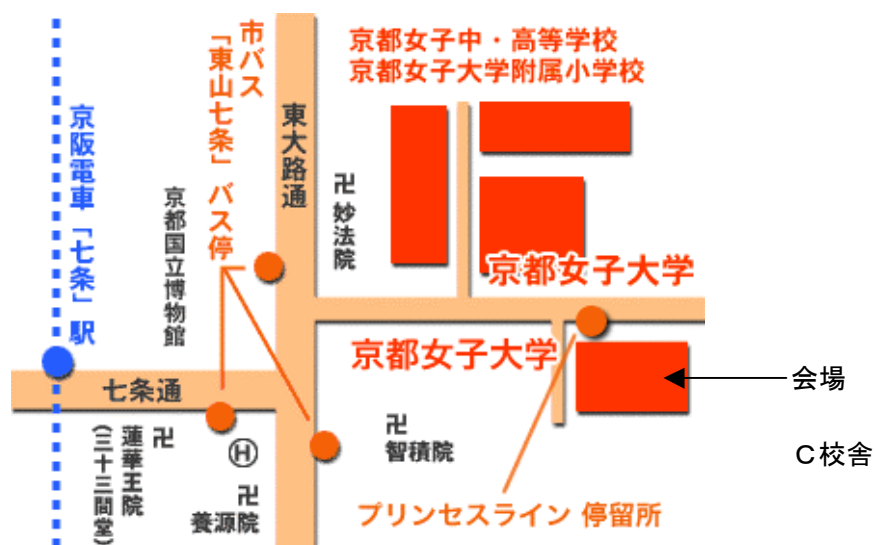
会場は、JR京都駅からバスで10分・徒歩で30分程度です。JR京都駅周辺には宿泊施設が多数ありますので、誠に申し訳ありませんが、各自でご予約ください。

なお、京都は観光客や修学旅行生も多いため、お早めにご予約されることをおすすめします。

#### 13. 会場までのアクセス

次ページをご覧ください。

# 京都女子大学までの交通アクセス



## 本学への主な交通機関

### ◆JR・近鉄「京都」駅より

烏丸中央改札口前 バスターミナル

市バス 206、208 または 100 で約 10 分、「東山七条」で下車し東へ徒歩 5 分

### ◆JR 京都駅八条口前

プリンセスラインバスにて約 10 分、「京都女子大学前」で下車

### ◆阪急「河原町」駅より

1 番出口から京阪「四条」駅へ、京阪「七条」駅で下車し東へ徒歩 15 分

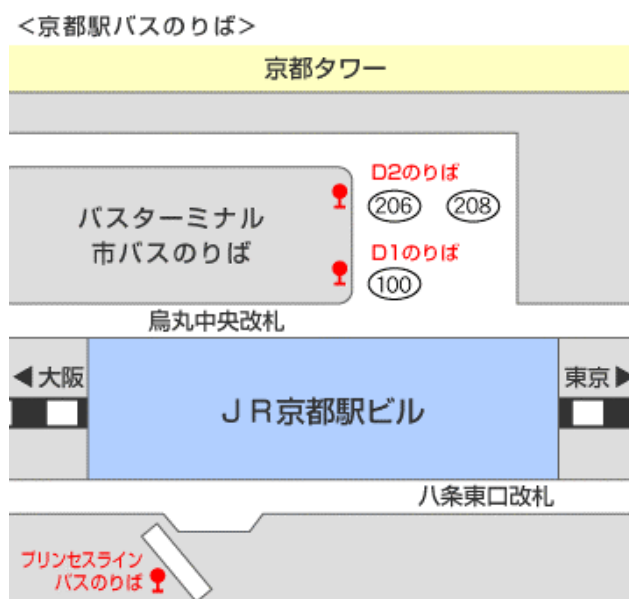
6 番出口から市バス 207 で約 15 分、「東山七条」で下車し東へ徒歩 5 分

2 番出口から河原町通を南へ約 80m、プリンセスラインバス「四条河原町」より約 15 分、「京都女子大学前」で下車

### ◆京阪「七条」駅より

東へ徒歩 15 分

プリンセスラインバス「京阪七条」より約 5 分、「京都女子大学前」で下車







◆プリンセスラインバス（民営の乗合バスです。運賃 220 円）

JR 京都駅（八条口）から京都女子大学まで直通のバス。

（四条河原町経由のプリンセスラインバスもあります。）

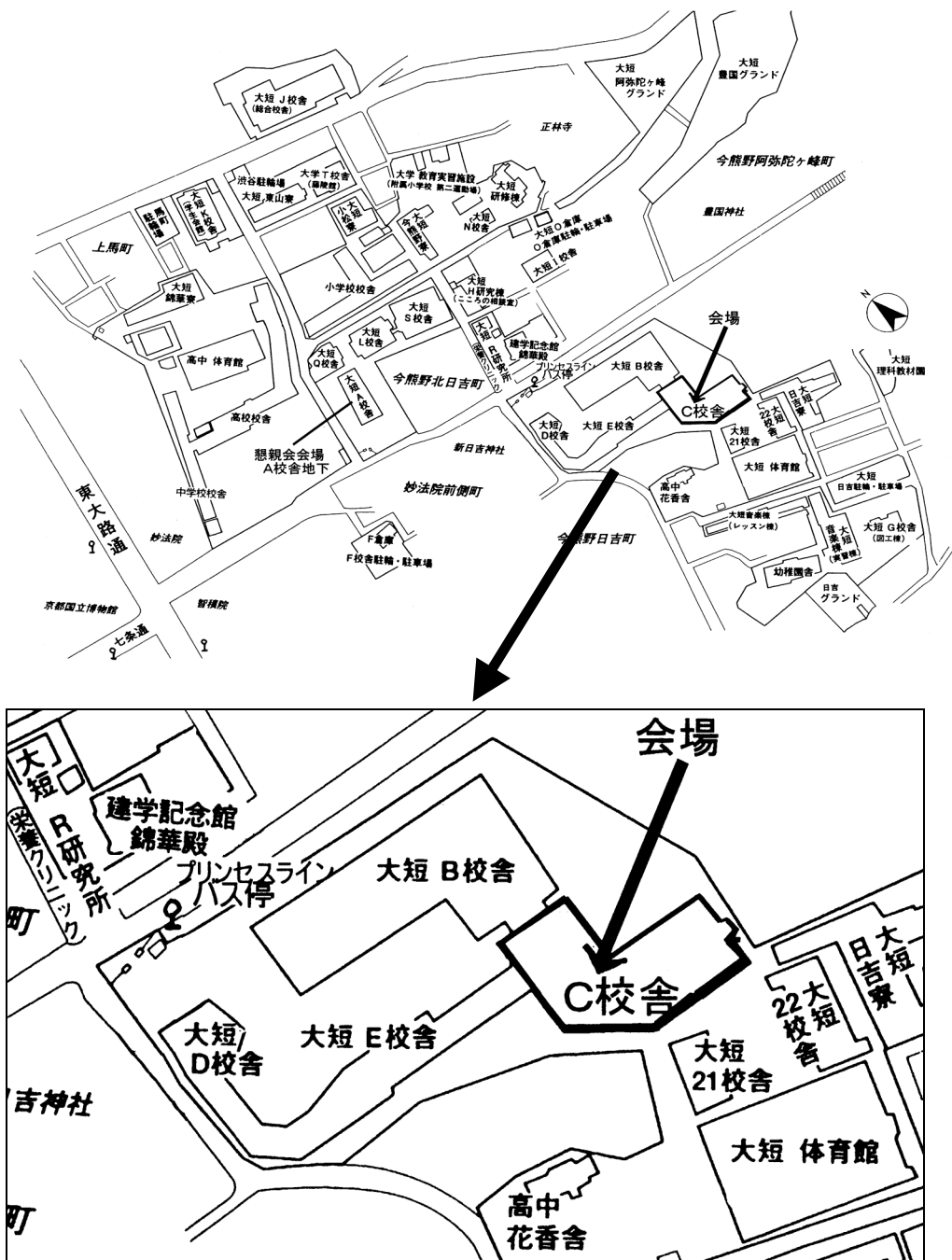
| JR 京都駅八条口発 |                         | JR 京都駅八条口発 |                   |
|------------|-------------------------|------------|-------------------|
| 京都女子大学前行き  |                         | 京都女子大学前行き  |                   |
| 土曜日        |                         | 休 日        |                   |
| 6 時        |                         | 6 時        |                   |
| 7 時        | 01 21 26 36 44 46 56    | 7 時        | 01 17 33 44 49    |
| 8 時        | 06 16 26 36 51          | 8 時        | 05 21 37 53       |
| 9 時        | 01 11 14 21 31 46 56 59 | 9 時        | 09 14 25 41 57 59 |
| 10 時       | 06 16 26 39 44 55       | 10 時       | 13 29 44 45       |
| 11 時       | 11 27 29 35 43 59       | 11 時       | 01 17 29 33 49    |
| 12 時       | 07 14 15 23 31 39 47 55 | 12 時       | 05 14 21 37 53 59 |
| 13 時       | 03 11 21 31 41 44 59    | 13 時       | 09 25 41 44 57    |
| 14 時       | 15 29 31 47             | 14 時       | 13 29 45          |
| 15 時       | 03 14 19 35 51 59       | 15 時       | 04 14 20 36 52 59 |
| 16 時       | 07 23 39 44 55          | 16 時       | 08 24 40 44 56    |
| 17 時       | 11 27 29 43 59          | 17 時       | 12 28 29 44       |
| 18 時       | 14 15 31 47 57 59       | 18 時       | 00 14 16 32 48 59 |
| 19 時       | 13 29 44 45             | 19 時       | 04 20 36 44 52    |
| 20 時       | 01 17 29 33             | 20 時       | 08 24 29 40       |



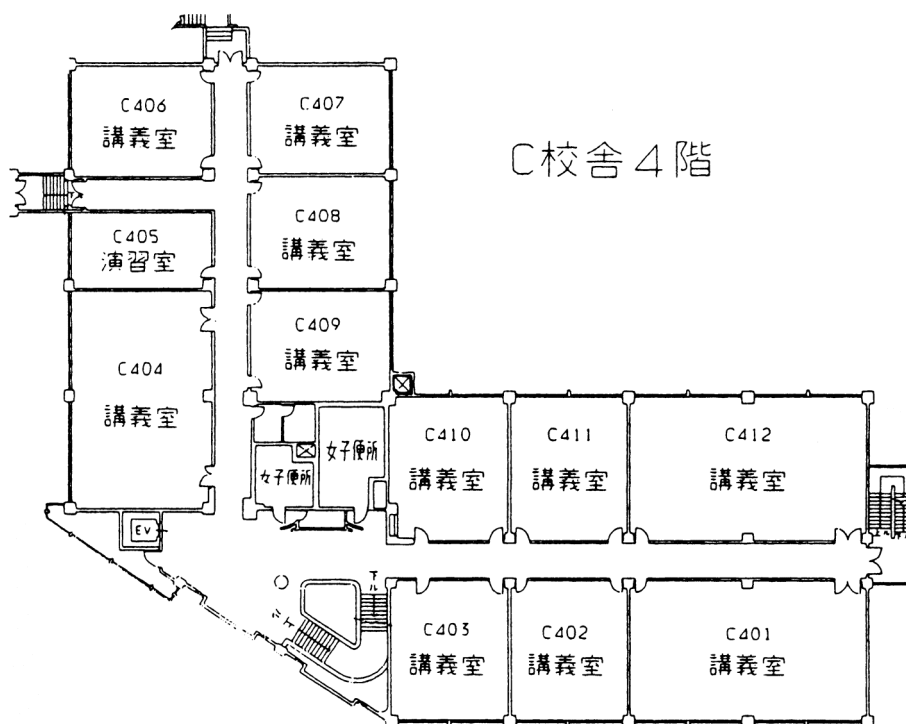
ウェルカムナビ <http://www.kyoto-wu.ac.jp/access/index.html>

京都女子大学のホームページで、最寄り駅から京都女子大学までの交通手段や所要時間が検索できます。ご利用ください。

## 京都女子大学キャンパス配置図



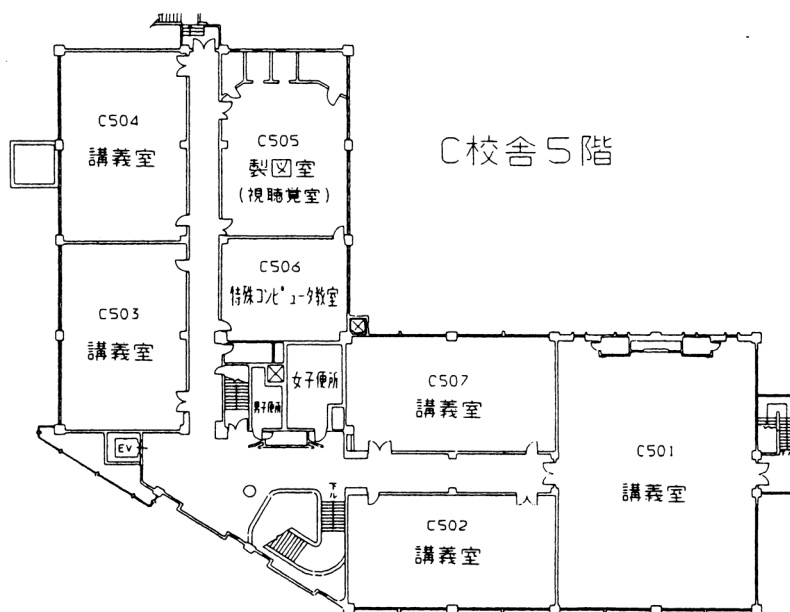
## 会場平面図



|           |           |           |         |
|-----------|-----------|-----------|---------|
| C402      | C403      | C408      | C411    |
| 研究発表Ⅰ-1   | 研究発表Ⅰ-2   | 研究発表Ⅰ-3   | 研究発表Ⅰ-4 |
| 研究発表Ⅱ-1   | 研究発表Ⅱ-2   | 研究発表Ⅱ-3   |         |
| ワークショップ 1 | ワークショップ 2 | ワークショップ 3 |         |
| C401      | C412      | C404      | C305    |
| 研究発表Ⅲ-1   | 研究発表Ⅲ-2   | 研究発表Ⅲ-3   | 研究発表Ⅲ-4 |
| ラウンドテーブル  | ラウンドテーブル  | ラウンドテーブル  |         |
| ル 1       | ル 2       | ル 3       |         |

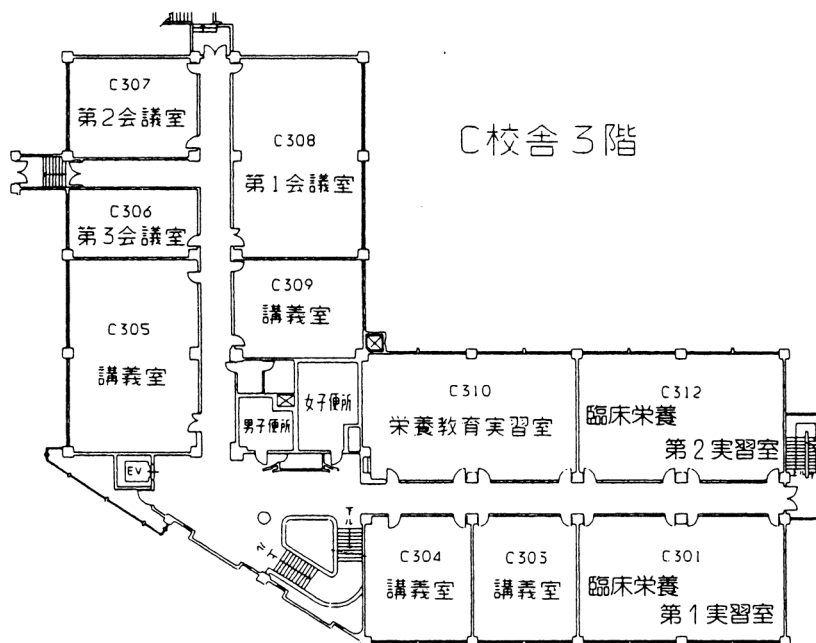
C 409

クローク



公開講演会

C 501



理事会・各種委員会      C 308（第一会議室）

評 議 会                      C 307（第二会議室）

大会実行委員会本部      C 306（第三会議室）

## 研究発表 I

7月3日(土) 9:30~12:00  
C校舎 4階 C402 教室

### I-1 子ども観と教育観

司会 小針 誠 (同志社女子大学)  
高旗 正人 (中国学園大学)

- 9:30~9:55 明治初期児童雑誌『ちゑのあけぼの』にみる児童教育観  
柿本 真代 (京都大学大学院)
- 9:55~10:20 子ども観と子ども像の分析  
湯地宏樹 (比治山大学短期大学部)
- 10:20~11:10 ルソーの子ども観一(4)  
○ 原田 彰 (広島大学)  
○ 望月 重信 (明治学院大学)
- 11:10~ 総括討論

## 研究発表 I

7月3日(土) 9:30～12:00  
C校舎 4階 C403 教室

### I-2 学校教育と発達支援

司会 古賀 正義 (中央大学)  
山縣 文治 (大阪市立大学)

- 9:30～9:55 障害のある幼児の保育・療育の歴史  
—1960年代後半までの社会状況に着目して—  
田中 謙 (東京学芸大学大学院)
- 9:55～10:20 「発達障害児」への保育実践の事例から  
末次 有加 (大阪大学大学院)
- 10:20～11:05 適応指導教室Xの子どもが捉える「学校」  
—指導員と子どもの相互作用における葛藤と変容に着目して—  
阿部 智美 (千葉大学大学院)
- 10:45～11:10 ある困難校における「総合的な学習の時間」実践の意味世界  
濱元 伸彦 (貝塚市立第一中学校)
- 11:10～ 総括討論



## 研究発表 I

7月3日(土) 9:30～12:00  
C校舎 4階 C408 教室

### I-3 親子関係と育児

司会 近藤 弘 (山梨英和大学)  
田中 理絵 (山口大学)

- 9:30～9:55 離婚に伴う面接交渉(面会交流)の問題  
上村 昌代 (京都女子大学大学院)
- 9:55～10:20 育児を理由とする転勤命令無効の訴えに関する判決の展開  
東野 充成 (九州工業大学)
- 10:20～10:45 女子青年期の愛着の4分類にみる世代間伝達の非連続性ー(3)  
関口 智子 (東葛西中学校)
- 10:45～11:10 縦断調査から見た母親の育児とライフコース  
中村 真弓 (尚絅大学短期大学部)
- 11:10～ 総括討論

## 研究発表 I

7月3日(土) 9:30～12:00  
C校舎 4階 C411 教室

### I-4 児童文化

司会 加藤 理 (東京成徳大学)  
舟橋 斉 (京都女子大学)

9:30～9:55 大正期児童雑誌『小学少年』・『小学少女』における読者の研究  
田中 卓也 (吉備国際大学)

9:55～10:20 伝統人形劇の伝承(1) —今田人形を中心に—  
松崎 行代 (飯田女子短期大学)

10:20～10:45 保育現場における紙芝居の活用状況  
髯櫛 久美子 (名古屋柳城短期大学)  
○ 野崎 真琴 (名古屋柳城短期大学)

11:10～ 総括討論

## 研究発表Ⅱ

7月3日(土) 13:30～15:30  
C校舎 4階 C402教室

### Ⅱ-1 家族と養育

司会 細辻 恵子 (甲南女子大学)  
棚橋美代子 (京都女子大学)

- 13:30～13:55 子どもの目標達成にかかわる父親の養育態度と社会的背景  
佐々木 卓代 (お茶の水女子大学大学院)
- 13:55～14:20 実親との関わりにおける里親の実践と葛藤への対応  
安藤 藍 (お茶の水女子大学大学院)
- 14:20～14:45 都市部における小学校受験への取り組み  
望月 由起 (横浜国立大学)
- 14:45～15:30 総括討論

## 研究発表Ⅱ

7月3日(土) 13:30～15:30  
C校舎 4階 C403 教室

### Ⅱ-2 マンガと青少年

司会 山田 浩之 (広島大学)  
馬居 政幸 (静岡大学)

- 13:30～13:55 マンガメディアに表れた"不良"  
—社会的構築主義アプローチによる概念分析—  
西村 清郎 (愛媛大学大学院)
- 13:55～14:20 マンガに見られる暴走族  
久保田 真功 (富山大学)
- 14:20～14:45 スポーツマンガとジェンダー —野球マンガの中の女たち—  
藤田 由美子 (九州保健福祉大学)
- 14:45～15:30 総括討論

## 研究発表Ⅱ

7月3日(土) 13:30～15:30  
C校舎 4階 C408教室

### Ⅱ-3 実践報告

司会 岡崎 友典 (放送大学)  
鬢櫛 久美子 (名古屋柳城短期大学)

13:30～13:55 通俗紙芝居(紙芝居屋の実演作品)の再評価  
鈴木 常勝 (愛知大学)

13:55～14:20 大学生の学習ボランティアからの学びと自己成長  
嘉納 英明 (公立大学法人 名桜大学)

14:20～14:45 地域の「子育て支援」人材育成の試み  
ー「江戸川総合人生大学子ども支援学科」の活動からー  
友野 清文 (昭和女子大学)

14:45～15:30 総括討論

## ■ワークショップ 1

2013 年日本子ども社会学会創立 20 周年企画

7 月 3 日 (土) 15 : 40 ~ 17 : 30

C 校舎 4 階 C 402 教室

### 歴史的アプローチによる子ども社会研究の可能性を探る

|       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 司 会   | 青井 倫子 | (愛媛大学)   |
|       | 岩田 遵子 | (東京都市大学) |
| 指定討論者 | 山田 浩之 | (広島大学)   |
| 報 告 者 | 麻生 武  | (奈良女子大学) |
|       | 山縣 文治 | (大阪市立大学) |
|       | 多賀 太  | (関西大学)   |
|       | 加藤 理  | (東京成徳大学) |

周知の通り、子ども社会研究は様々な領域からのアプローチによる学際研究の可能性を秘めている。同時に多様な方法的アプローチの可能性も秘めている。その多様な方法的アプローチの一つに歴史的アプローチがある。

本ラウンドテーブルでは、その可能性について討論を行う。

## ■ワークショップ2

研究交流委員会企画

7月3日(土) 15:40~17:30

C校舎 4階 C403教室

### マナーと人間形成(2)

|         |   |         |         |
|---------|---|---------|---------|
| 司       | 会 | 加野 芳正   | (香川大学)  |
| 発       | 表 | 者 加野 芳正 |         |
|         |   | 鷹野 克己   | (立命館大学) |
|         |   | 西本 佳代   | (香川大学)  |
| コメンテーター |   | 古賀 正義   | (中央大学)  |

社会学者のエリアスは、文明化とはマナーが人々のあいだに浸透してゆく過程であると論じている。マナーは人間が動物的な次元に近づかないように発達させた身体技法でもある。マナーの多くはしつけを通じて身体化されるので、教育の問題と不可欠である。また、マナーには市民社会の快適さを維持し、人と人とのつながりをつくる側面と、自己の文化的洗練度を社会的に誇示しようとする差異化の二面性を持っている。そもそも「マナー」とは何かを、「ルール」や「道徳」との対比で検討していく必要があるだろう。また、マナーを研究の対象とすることで、若者たちの行為や価値観について、新しい発見があるのではないかと考え、異業種連携で、マナーの研究を行っている。

マナーの類似語には、ルール、規範(意識)、エチケット、品格、品位、礼節、礼儀(礼儀作法)、行儀、作法、道徳などさまざまなものがある。ルールは守ること自体が目的となるが、マナーは必ずしも守らなくてはならないものでもない。しかし「マナー」は「さわやかマナー」という言葉があるように、守ることで気持ちがよいと感じる。

本テーマでの発表は、昨年度に引き続いてのものである。今年度は、マナーのもつ諸側面を社会的、人間学的の考察した後、大学生を対象としたマナー調査の結果について報告する。近年では、マナー教育を実践している大学もあるように、遅刻、私語、授業中の飲食、着帽、席の独占、ジベタリアン、ケータイいじりなど、授業以前に何とかしたい問題が噴出している。これに対して、大学側はマナーをルールに置き換えるなど、さまざまな試みをしている。大学生はマナー行動についてどのように考え、行動しているのか、全国19大学(国立大学5校、公立大学2校、私立12大学)、2,574名の大学生を対象に行ったアンケート調査をもとに、マナーという問題を参加者の皆さんと考えていきたい。





## ■ワークショップ3

7月3日(土) 15:40～17:30  
C校舎 4階 C408教室

### 地域子育て支援拠点事業における「評価」からみえる問題点

|       |        |                               |
|-------|--------|-------------------------------|
| 話題提供者 | 川北 典子  | (平安女学院大学)                     |
|       | 朱 まりこ  | (京都女子大学非常勤・<br>元気スポット0・3 施設長) |
|       | 藤本 明美  | (京都女子大学非常勤・<br>京都子育てネットワーク代表) |
| 司会    | 齋藤 佳津子 | ((財)京都YWCA幹事・<br>京都教育大学非常勤)   |

近年、全国的に「つどいのひろば」の設置が急ピッチで進められてきました。しかし、現在の事業評価はプログラムの回数や参加者の人数等、量的な評価指数に左右されており、親が主体的に子育てをするためのプログラムを質的に評価するものではありません。その為に企画を進めていく段階で起こる弊害も少なくありません。

このワークショップでは、「つどいのひろば」に関わる話題提供者からの発題をもとに、参加者の積極的な参加と発言から、現在の課題点を洗い出し、解決に向けた道を探りたいと思います。

## 研究発表Ⅲ

7月4日（日） 9：30～12：00  
C校舎 4階 C401教室

### Ⅲ-1 教師像と教育現場

司会 南本 長穂 （関西学院大学）  
大倉 健太郎 （立教女子学院短期大学）

- 9：30～9：55 1950年代の生活記録運動の意義  
—山形県の実践事例を手がかりに—  
牧野 修也 （神奈川大学）
- 9：55～10：20 学童保育のあり方に関する自由記述の分析  
中田周作 （中国学園大学）
- 10：20～11：45 子どもの目がとらえた教師像の変化  
—平成6年と平成21年の子ども調査から—  
○ 三枝 恵子 （東京成徳大学）  
鶴巻 景子 （杉並区立新泉小学校）
- 10：45～11：10 教員の職能的成長過程の研究  
—「中核的中堅教員」における職能的成長の契機—  
○ 山田 久徳 （高崎市立新町第二小学校）  
永井 聖二 （東京成徳大学）
- 11：10～ 総括討論

## 研究発表Ⅲ

7月4日（日） 9：30～12：00  
C校舎 4階 C412 教室

### Ⅲ-2 保育と保育者

司会 青井 倫子 （愛媛大学）  
日浦 直美 （関西学院大学）

- 9：30～9：55 明治後期の模範保育所の実際  
一生江孝之の「出征軍人児童保管所」に着目して－  
和田 真由美 （姫路福祉保育専門学校）
- 9：55～10：20 保育者の語りにみる保育環境  
李 ハジョン （九州大学大学院）
- 10：20～11：45 ライフヒストリーからみる保育者のキャリア形成に関する研究  
奥山 優佳 （東北生活文化大学短期大学部）
- 10：45～11：10 保育者の職業的アイデンティティ形成とローカルガバナンス  
－異動と雇用に焦点を当てて－  
香曾我部 琢 （上越教育大学）
- 11：10～ 総括討論

## 研究発表Ⅲ

7月4日(日) 9:30～12:00  
C校舎 4階 C404教室

### Ⅲ-3 地域の文化と子育て

司会 川北 典子 (平安女学院大学)  
田中 亨胤 (姫路獨協大学)

- 9:30～9:55 「地域の教育力」に関する考察 ―放課後児童施策を手がかりに  
三好 正彦 (京都大学人間・環境学研究科  
研究支援員)
- 9:55～10:45 子育て支援ネットワークの構築・運営に関するアクション・  
リサーチ―社会関係的資源の動員・活用・蓄積の観点から―  
○ 飯田 浩之 (筑波大学)  
○ 渡辺 恵 (明治学院大学)
- 10:45～11:35 地域文化の生成／伝承を通じた学び環境構築の試みと可能性  
について  
岡崎 友典 (放送大学)  
○ 夏秋 英房 (國學院大學)  
○ 春日 清孝 (明治学院大学)  
牧野 修也 (神奈川大学)
- 11:35～ 総括討論

## 研究発表Ⅲ

7月4日(日) 9:30～12:00  
C校舎 4階 C305教室

### Ⅲ-4 子ども調査

司会 武内 清 (上智大学名誉教授)  
森 繁男 (京都女子大学)

9:30～9:55 小学校中学年における給食実践の異文化交流  
真鍋 眞澄 (山村学園短期大学)

9:55～10:20 学力・生活の変化の追跡的研究  
—小学生・中学生を対象として—  
中西 啓喜 (青山学院大学大学院)

10:20～11:10 学校の居心地に関する日韓比較調査  
○ 深谷 野亜 (松蔭大学)  
○ 朴 珠鉉 (東京家政大学)

11:10～ 総括討論

■公開講演会（一般聴講可）

7月4日（日） 13：20～15：20

C校舎 5階 C501 教室

## 子ども研究の現状と課題

### — 子ども社会研究への提言 —

講師 榊原 洋一 氏

日本子ども学会副代表

お茶の水女子大学大学院人間創成科学研究科教授

【講師紹介】

1951年 東京生まれ

1976年 東京大学医学部卒 小児科入局

1990年 東京大学講師

2004年 お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター教授

2010年より現職

専門 小児科学、小児神経学、発達神経学、国際医療協力、育児学

主要著書：

『赤ちゃんはてな 赤ちゃんがわかる育ちのガイドブック はじめて出会う育児シリーズ』（小学館）

『ママの「育児3大悩み」解消 BOOK 寝ない・食べない・泣きやまないはこうすればOK!』（日本文芸社）

『子どもの脳の発達臨界期・敏感期 早期教育で知能は大きく伸びるのか?』（講談社+α新書）

『オムツをしたサル』（講談社）

『ヒトの発達とは何か』（ちくま新書）

『集中できない子どもたち—ADHD（注意欠陥・多動性障害）なんでもQ&A』（小学館）

『「多動性障害」児』（講談社+α新書）

『アスペルガー症候群と学習障害』（講談社+α新書）

『はじめて出会う育児の百科』（小学館）

『Dr.サカキハラのADHDの医学』（学研）

『赤ちゃんのためにパパとママに聞いてもらいたい話』（PHP研究所）ほか

## ■ラウンドテーブル1

7月4日（日） 15：30～17：30

C校舎 4階 C401教室

### 子どもの経験と学びの連続性を考える

—幼児期における遊びと児童期における学びをめぐって—

|          |       |          |
|----------|-------|----------|
| コーディネーター | 小川 博久 | (聖徳大学)   |
| 司会者      | 小川 博久 |          |
| 提案者      | 請川 雄大 | (日本女子大学) |
|          | 内山 隆  | (札幌国際大学) |
|          | 岩田 遵子 | (東京都市大学) |

現在、幼児教育と小学校教育の関係がいろいろ問われていて、この関係をどう構築していくかが問題にされている。そして、現在、この二つの組織の間での人事交流や活動交流は行われている。しかし、基本的な考え方として、組織上の相違を越えて、その関係性を問う視点が必ずしも明確になっていない。そこで、幼小を越えて、どういう人間像が発達の中で形成されるべきなのか、という視点から、今の教育の現状を考える必要がある。

このことは、幼小の関連についての既成の通年を問い直すことを意味している。これまで幼小の関連は、小学校教育における教科内容の学習を基本的学校知として措定し、この学校知に対して幼稚園・保育所で求められるべき経験知・学習知を考えるという形が一般的であった。この発想で考えると、幼稚園・保育所における経験や学びは、それらが学校知にどう貢献するか、という点でしか評価されないことになる。その結果、学習効率的な考え方が支配的になり、幼稚園・保育所における幼児の学習意欲や好奇心や探求心を大切にする遊びや活動体験は、非効率な学びということになってしまう。

そこで、このラウンドテーブルでは、幼稚園・保育所の遊びや活動体験における幼児の学習意欲や好奇心がどうすれば学校知の学びとなりうるか、という点から幼小の問題をとらえていきたい。そして、そのためには、学校知はどう変わらなければならないかを考えていきたい。

## ■ラウンドテーブル2

7月4日（日） 15：30～17：30

C校舎 4階 C412 教室

### 子ども社会研究における人類学の可能性

|          |       |                |
|----------|-------|----------------|
| コーディネーター | 南出 和余 | （桃山学院大学）       |
| 兼司会者     |       |                |
| 話題提供者    | 針塚 瑞樹 | （筑紫女学園大学非常勤講師） |
|          | 南出 和余 |                |
| 指定討論者    | 鵜野 祐介 | （梅花女子大学）       |

子ども社会研究の学際性を論じるとき、そこには文化人類学や民俗学も含まれ、何らかの役割が期待される。しかし、実際には文化人類学をディシプリンとした子ども研究（子ども社会研究）は、他の学問分野に比べて限られているのが現状で、その貢献に限界があると言わざるを得ない。一方、文化人類学の側から見ても、「子ども」を対象とした文化人類学的研究は、他の対象と比べて明らかに少なく、そうしたことも、子ども社会研究における人類学のプレゼンスの弱さに関係していると思われる。

しかし、近年とくに、これまで人類学が研究調査の手法かつ学問的特徴としてきた「フィールドワーク」が、他分野でも多く活用されるようになったことや、グローバル化の状況下において、日本国内でも異文化接触や適応の問題が、教育現場からの要求として浮上してきたことなどを背景に、子ども社会研究における人類学の可能性を、方法論や視点、あるいは対象との関わり方などから再考する意義があるのではないかと考えている。本ラウンドテーブルは、「子ども社会研究」15号における鵜野祐介氏の「教育人類学と子ども社会研究—展望と課題—」での提言をも受け、こうした可能性を、参加者とともに考える「事始め」の場としたい。



### ■ラウンドテーブル3

7月4日(日) 15:30～17:30

C校舎 4階 C404教室

#### 子どもの抱く達成動機・自尊感情に関する国際比較研究について

|                 |       |             |
|-----------------|-------|-------------|
| コーディネーター        | 伴 恒信  | (鳴門教育大学)    |
| 提案者 1 テーマの趣旨と目的 | 深谷 野亜 | (松蔭大学)      |
| 2 国際比較の意味と要点    | 馬居 政幸 | (静岡大学)      |
| 3 道德教育の視点から     | 押谷 由夫 | (昭和女子大学)    |
| 4 教育現場の視点から     | 土橋 稔  | (世田谷区給田小学校) |
| 討論者             | 半田 勝久 | (東京成徳大学)    |

総務庁青少年対策本部や日本青少年研究所などが実施してきた青少年対象の各種国際比較調査において、日本の子ども達の自尊感情および達成動機の低さがつとに指摘されてきた。平成 21－22 年度日本子ども社会学会の共同研究として承認されスタートした本研究では、同じ東アジアの隣国にあって儒教的エートスの生活規範を共有しながらもその急速な近代化のプロセスや政治社会体制を異にする、東京、北京、ソウルの三カ国

三都市の子ども達を調査対象に据え、現時点での自尊感情や達成動機に係る子どもの意識の現状を掌握するとともに、その家庭および学校での影響因や社会文化背景との関係性を明らかにしようとするものである。

本研究ではまた、自尊感情および達成動機に関する先行研究を踏まえつつも心理主義的理論検証に終始しない、さらには日本側の一方的な課題認識を表層的な国際比較で確認するだけの調査に留まらない研究方法の確立をも目指している。これまでの共同研究グループでの検討結果を提示して、広く学会員の方々からの忌憚のないご意見およびご提案をつのりたい。

日本子ども社会学会 第17回大会プログラム

発行 2010年5月

発行者 日本子ども社会学会 第17回大会実行委員会

|     |        |               |
|-----|--------|---------------|
| 委員長 | 川勝 泰介  | (京都女子大学)      |
| 委 員 | 棚橋 美代子 | (京都女子大学)      |
|     | 富村 誠   | (京都女子大学短期大学部) |
|     | 舟橋 斉   | (京都女子大学短期大学部) |
|     | 森 繁男   | (京都女子大学)      |

委員氏名は五十音順

日本子ども社会学会 第17回大会実行委員会  
〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35

京都女子大学 発達教育学部 児童学第三研究室気付

TEL・FAX : 075-531-7137

E-mail : kawakatu@kyoto-wu.ac.jp

